

八菅山

いこいの森自然観察路

自然環境を将来に引き継ぐために



第2集 2015年発行

愛川町・サークル愛川自然観察会

<http://www.7b.biglobe.ne.jp/~aikawashizenkansatu/>

れます。遠く、横浜ランドマークタワーや新宿副都心のビル群なども望むことができます。

花々を巡るハチやアブ、決まった食草を食べるチョウや、ガの幼虫、樹液に集まる甲虫類、雑木林を棲みかとする様々な生きものの生態を観察することができます。アスレチック7種類があります。

⑤ ゾーン5 みずとみどりの青空博物館

「野外で生きたままの自然を観ることができる施設」として整備された水辺や池、広場からなる場所です。

ア、トンボ池

ゲンゴロウやトンボ類、カエル類、ドジョウ、ヌマエビ、カニ、アメンボなどの水生生物の生息地として作られました。

イ、あおぞら館

休憩所を兼ねた施設で、自然関係の資料などを掲示し、更新は季節ごとに行われています。



ウ、芝生広場

周辺を取り巻いてクヌギ、カツラなどの落葉樹が植栽された芝の広場となっています。中央山寄りには岩のステージがあり、イベントの開催もできます。広場にはスズメやセキレイ、ツグミなどの野鳥が群れ、バッタやトンボ類の生息する空間となっています。

1 いこいの森の自然

八菅山一帯は、神奈川県指定の自然環境保全地域並びに愛川町指定の風致地区に指定されています。また、八菅神社の社叢林は神奈川県の天然記念物に認定され、いこいの森は神奈川県公園50選に選ばれるなど、自然環境が良好な場所として知られています。

愛川町が整備した「八菅山いこいの森」は、自然を保全しつつ自然景観と調和のある広場や施設をつくり、人と歴史と自然とが触れ合う場所として維持されることを目的にしたものです。人々の心身の健康にとっても掛けがえのない空間となっています。

2 自然観察・散策路

八菅山いこいの森は次の5つのゾーンがあり、それぞれは散策路でつながっています。



① ゾーン1 八菅神社社叢林

八菅神社の社叢林は、宗教的聖地として昔から伐採されることなく自然の状態が今日まで続いて来ている森です。境内に立って木々を見上げると、常緑広葉樹の巨木が上空を覆い鬱蒼としています。スタジイを中心に、樹齢100年を超える古木が数多く自生しています。人の手がかわらない自然のままの植物群は、当地域の気候風土が長い時間をかけて育ててきた森の姿と言えます。タブノキ、サカキ、クロガネモチ、ヒサカキ、ヤブツバキに混じってスギ、ヒノキ、モミ、ナギ等の針葉樹、イヌシテ、ホオノキ等の落葉広葉樹で構成されています。

散策路沿いには県内でもまれな、アリドオシやカラタチバナ、ウ

3 周辺地域の自然環境

① 鷹尾山

八菅山南東の厚木市と愛川町の境界に位置しています。愛川町と荻野地区を結ぶ林道から登ることができ、山頂部は平坦になっています。吹き上げる気流によって移動するチョウの群れに出会うこともあります。

標高230m程で、厚木市内をはじめ遠方から眺望できます。

② 尾山耕地

八菅橋上流の中津川右岸に広がる水田地帯です。人の生活活動に伴う影響の少ない環境にあって、他の地域では観られなくなったコオイムシやイトアメンボ、トウキョウダルマガエル、イトトリゲモ、イチョウウキゴケ、ホシクサ等の、絶滅危惧種に指定され水辺の生きものに出会うことができます。特にトンボ類は30種を超え、発生期の異なる種類が春から秋にかけて次々と観察できます。



③ 中津川

丹沢山地に源を発し、宮ヶ瀬湖で貯留された後、流域の集落や水田を潤しながら愛川町域のほぼ中央を流れ下っています。アユが多く生息する川として知られ、昔から様々な漁法でアユ漁が行われていました。八菅橋付近では多くの釣り人やキャンパーの姿があります。また、近くには「かながわのまちなみ100選」に選定された「しょうぶの里」もあります。

ラジロの群落やコクラン、タシロラン、マヤランなどの絶滅危惧植物も自生しています。他に弓矢に使うヤダケ、青色のコアジサイ、林床植物では、フユイチゴ、ベニシダ、ヤブラン、マンリョウ、ギンリョウソウなども見られます。

常緑樹の森は平地にはあまり姿を見せない野鳥や昆虫の棲みかでもあり、様々な動物に出会う機会も多くあります。

② ゾーン2 お花見広場

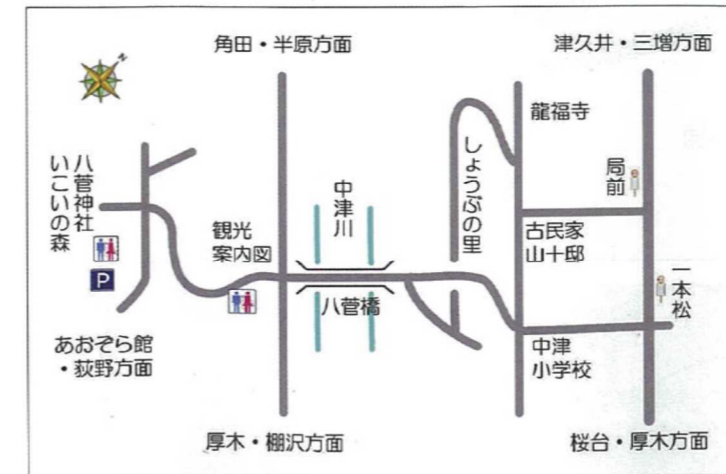
本殿裏手で社叢林を抜けると突然森の様子が一変します。ここは人の手がかわった森で、木炭やまきを生産するために長い間にわたって伐採が繰り返されてきたために常緑樹は淘汰され、落葉広葉樹の雑木林となったもので、二次林として自然林と区別しています。コナラ、クヌギ、ヤマザクラ、ミズキ、ホウノキなどが占有しています。冬期には明るく日が差し込み、芽吹き前のこの時期だけに見られる早春植物が林床に生育し、スミレ類、チゴユリ、ミヤマナルコユリ、ヘビイチゴ、ジュウニヒトエ、オカタツナミソウなどが春の訪れを告げます。



他ではあまり見かけないワニグチソウ、ヒメヤブランも自生しています。また、キブシやウグイスカグラ、モミジイチゴなどの灌木類もこの時期の植物です。秋にはドングリやクルミが落ちリスやアカネズミの餌となります。落葉した木々にはコゲラをはじめ多くの種類の野鳥の姿も見られ、バードウォッチングの適期となります。

4 八菅山いこいの森へのアクセス

- 厚木・依知方面より
 - ・神奈中バス 一本松下車 徒歩20分
 - 一本松バス停→中津大橋→八菅橋→八菅神社→いこいの森
 - ・神奈中バス 局前下車 徒歩25分
 - 局前バス停→古民家山十郎→しょうぶの里→八菅橋→八菅神社→いこいの森
 - ・車 県道相模原大磯線 一本松交差点左折5分
- 厚木・棚沢方面より
 - ・車 町道幣山一下平線 八菅橋左折1分
- 角田・半原方面より
 - ・車 町道幣山一下平線 八菅橋右折1分
- 津久井・三増方面より
 - ・神奈中バス 局前下車徒歩25分 一本松下車徒歩20分
 - ・車 県道相模原大磯線 一本松交差点右折5分



ヤマザクラをはじめ様々な花が四季を通して楽しむことのできるゾーンです。アスレチック11種類があります。

③ ゾーン3 やすらぎ広場

尾根の平坦な散策路と梵天塚周辺が中心のゾーンで、四季を通して様々な植物が観察できます。クロモジやサンショウの匂いを嗅ぎ、ニガイチゴやモミジイチゴを味わい、ヤブタバコやノハラアザミ、オカトラノオなどにも足を止めることができます。貴重種のマヤランやオオバントンボソウなどラン科植物も出現します。尾根を越えて行き来するシジュウカラやエナガの群れにも出会うことができます。コナラの根もとには背中に棘のあるトゲアリの巣穴と、巣穴の周囲にツツミミノムシと言う珍しいガの幼虫が観察できます。アスレチック12種類があります。



④ ゾーン4 展望台広場

やすらぎ広場に続くゾーンで、いこいの森で標高の一番高い所です。広場を周遊できる明るい散策路があり、スミレ類やジュウニヒトエ、ニガナ、ノアザミ、キツネノカミソリ、ノコンギクなど四季を通して様々な草花を観察することができます。チョウやセミなど夏の昆虫観察も好適地です。開けた空には旋回するトビやノスリなどの姿もあります。

展望台からは眼下に中津川、愛川町の中津・箕輪方面が眺望でき、視線を移していくと相模原台地の河岸段丘が幾段にも重なって観ら

5 愛川町とサークル愛川自然観察会の協働事業

① 生態系の保全

トンボ池に生息する外来種や、八菅山を流れる大沢水系の生態系を歪めている生物種を、生物多様性の保全法、外来生物法の趣旨から駆除することの必要性を解説した説明板の設置をしています。

② 情報発信基地

あおぞら博物館内の掲示物を更新しています。愛川町域の自然に関する情報発信基地の一つとして、季節ごとに野鳥や昆虫、植物等の自然情報を掲示しています。また、観察ミニ手引きを制作しています。

③ 四季の自然観察会

八菅山は「自然環境保全地域」と「県指定天然記念物」「公園50選」等の指定を受けた自然豊かな森であることから、多くの人々が自然環境に関心を持ち、自然に親しむ機会として、季節ごとにいこいの森四季の自然観察会を開催しています。



サークル愛川自然観察会
 連絡先 243-0306 愛川町田代1104番地
 山口勇一(代表)
 TEL 046-281-1891 FAX 同左
 E-mail yalma1gu0chi4@ksh.biglobe.ne.jp
 URL <http://www.7b.biglobe.ne.jp/~aikawashizenkansatu/>

八菅山周辺の森案内図



愛川町・サークル愛川自然観察会



- 八菅山の歩き方
- ・鳥、獣、魚、昆虫をウォッチングしませんか
 - ・四季の織りなす雑木林や、谷戸の水辺を巡ってみませんか
 - ・森林浴でセラピー体験してみませんか
 - ・自分流の自然アルバムを作ってみませんか